

○凡事を極めると見えてくるもの

先月、本校は「古代出雲歴史博物館」、「株式会社ホテル一畑」と連携調印をいたしました。みなさんが我がふるさと島根について理解を深め、愛着を持ってくれること、日頃学習していることを学校外の機関と連携することにより、より専門的なアドバイスをいただき高度な研究実践ができること、学習や研究の成果の発表を校外で行うことができることなど、貴重な機会が持てるようになりました。課題研究グループはもちろん、生徒会、農業クラブ、家庭クラブなどの積極的、自主的な提案、行動を期待しています。

さて、今日は調印式の日のホテル一畑での出来事をお話ししたいと思います。みなさんカレーをお客様にお出しするときライスの皿とカレールーの入れ物のどちらを先にテーブルに置くと思いますか。サービス業務のプロである森田副社長様はこう話していらっしゃいました。「食品提供の鉄則は『衛生と安全』です。お客様に衛生的なものを安全にお出しすることが最も大切なことです。そのことを考えればどちらを先にテーブルに置くかはおのずと答えが出てきます。」と、さて、どちらを先にテーブルに置くでしょう？

(答え：カレールーの入れ物 片手に料理を持ち、片手でサーブするとき熱いものをこぼしてお客様にやけどをさせたりしないよう不安定なものを先にテーブルに置く。)

また、ホテルの前で川内社長様とお話をしているときに、大きな荷物を抱えた若い女性の方が二人やってきました。その女性は一畑のスタッフに「これから島根大学医学部の学園祭に行くんだけど駅に大きめの荷物を入れるコインロッカーが見当たらず」と、話しかけていました。スタッフの方は、駅の西側にコインロッカーがあると指さしながら親切に教えてあげていました。その会話を聞いた川内社長様はすかさずその若い女性達にある言葉をかけられました。さて、何と声をかけられたのでしょうか？

(答え：「フロントでお預かりしましょうか。」 二人の女性は大変喜ばれ、帰りがけには食べるつもりがなかったランチを食べていかれたそうです。)

4月以来、私はみなさんに「凡事徹底 日々新生」ということを訴えてきました。「当たり前のことを徹底的に行うことによって、新たな価値が生まれてくる」。みなさんは、日頃の学習、挨拶、掃除、時間厳守、身の回りの整理整頓など当たり前のことを一生懸命やっていると私は高く

評価しています。昨日は、出雲商業高校からいらっしゃった3人の先生方がみなさんの素敵な挨拶、太鼓部の生徒の素晴らしい対応に感動したと言って褒めていただきました。凡事を徹底すると人に「感動」さえ与えるのだと気づきました。

サービス業を専門とするホテルマンにとって、お客様がどう感じるのかを常に考えながら徹底して凡事を行うと、おのずと見えてくるものがあるようです。自分以外の人を意識して、その人がどう感じるかということを考えながらやることの大切さ。こんなあいさつをするとこの人はどう感じるだろう。ここまできれいに掃除をするとここを使う人はどう思うだろう。そんなことを考えながら徹底して凡事を行いましょう。そうすれば必ずそこに新たなものが見えてくる、新たな価値が生まれてくるでしょう。